



# まちの達人

## TATSUJIN

「めだかの学校」

校長 三好 和宏

「視力が衰えりやメガネ！聴力が衰えれば補聴器！」こうした常識を皆さんは信じているでしょう。ところが、補聴器はメガネほどには上手に使いこなせないのです。「光」はまっすぐに届きますが「音」は曲がったりゆがんだりします。だからうまく聴こえないのです。補聴器だけだとテレビもラジオもうまく聞こえず、電話も不便です。少しの工夫がいます。そうした工夫を「めだかの学校」では勉強しています。

東京の大学や研究者が「聴こえの支援」を研究しています。その研究により開発された「ソラシステム（※1）」や「ループリシステム（※2）」は、毎月体験会を開催して市民の方々に紹介



「ソラシステム」を体験する参加者

しています。場所は蒲郡駅のすぐ近くの勤労福祉会館で、毎月第1土曜日午前10時から午後4時まで行っています。散歩がてらに来てみてください。

日本は世界でも有名な騒音大国です。しかも着々と高齢化社会に向っています。「難聴」は誰にでも起こりうる病気です。そして「難聴」は本人のみならず、家族や友人知人も、どう対処してよいのか分からないのです。親孝行のつもりで高価な補聴器を買っても使い切れないのです。やがては孤立していつてしまします。情報化社会で取り残されることは悲惨です。この問題に真正面から取り組んでいるのが「めだかの学校」です。

ごみゼロ運動は豊橋が発祥の地です。「聴こえの支援は蒲郡から！」という言葉を生み出したいものです。誰でも会員になります。ご協力ください！

※1 発生音を電氣的に変換して聞き取る補聴支援機器

※2 磁界に音声を流して補聴器で聞き取る装置

**水族館**

学芸員 小林龍二

竹島水族館 ☎68・2059

海に「ナマコ」がたくさんいるという情報を受け、寒期中、採集に行ってきました。といっても皆、通常の業務があるので、採集に行けたのは、アシカショーが始まるまで時間のあった私一人。

気持ちの悪いナマコといえども海の生き物。ウキウキして海に到着すると、さすがは冬、沖からの風が強くて冷たかったです。そして当然のようになんか寒い海には誰もいませんでした。冬の海にいる人は、仕事で海に関わらざるをえない人か、よほどの海好きな半魚人かのどちらかです。私の場合は仕事といえどもたぶん後者でしょうね。

さて、肝心のナマコは見当

### 冬の海での採集

たらず、海には打ち寄せる波の音と私の鼻をすする音のみが響いていました。「ガセネタか？」とぼやく私。経験上、どこかに何かがたくさんいるという情報はおよそ行ってみると既にいなかったり、シーズンが終わっていたり、ウソの情報だったりします。しかし、今回の情報をくれたのは市内に住むKさん。Kさんは普段から優しく、頼れる方なので、信じてもう少し探してみようと、ある一部に固まっとうごめく、かわいいナマコを大量に見えました。

生き物の採集やスカウトはプロの立場なので、採れると採れないとでは周りの反応に大きな差があります。特に今回のように代表として一人で行った場合、必要数採って帰れば何事もなく済みですが、逆にまったく何も採れず、笑顔でごまかしたりすると、時に他の職員から声のような言葉を浴びることもあります。ですから採れたナマコは命の恩人。とてもかわいく見えました。